



世界赤十字・赤新月デーを迎えるにあたり、まずは、救護活動中に命を落とした同僚たちに深い哀悼の意を表します。こうした事態には憤りを超えて言葉も出ません。何とかして止める必要があります。

戦時のルールが無視され、人道支援従事者が意図的に標的にされている現状を、国際社会は見過ごしていいのでしょうか。そうした攻撃はすべて、救いを求めているコミュニティーへの攻撃であり、民間人を保護して紛争による苦痛を軽減する法律への裏切りです。

今年3月にパレスチナ赤新月社のスタッフが無残にも殺害された事件について、世界は激しく非難しました。しかし、これは珍しい話ではないのです。ガザやスーダン、ウクライナ、そしてコンゴ民主共和国で、私たち赤十字の同僚たちは戦火をかいくぐりながら救急車を運転し、支援を届け、前線で助けを必要としているコミュニティーのもとへ駆けつけています。

今年に入ってすでに 10 名の同僚の命が奪われました。人道支援従事者にとって最悪の年となつた 2024 年には、国際赤十字・赤新月運動の職員とボランティアだけで 38 名がなくなりました。この恐ろしい流れを断たないと、2025 年はさらに悪い結果を招くことになるでしょう。

国、そして紛争当事者は、人道支援従事者を保護し、国際人道法を遵守して、人類を守るために立ち上ることでこの不穏で危険な流れを断ち切る責任を負っています。今その行動がまさに求められているのです。

原文は[こちら](#)